

編集後記

最初に今回の事業に隊員として参加し、日本に帰国後、家族に会うことなく急死された故寺田雅治さん、山岳基金を残してくれた故小川勝さん、そしてこの報告書の最終段階に入った平成22年9月28日にダウラギリ峰で遭難した第一チーム隊長田辺治さんにこの報告書の発刊をもって60周年記念事業が完遂したことを謹んで報告いたします。

田辺さんの遭難をこの報告書に掲載するとは考えもしなかったことで、まさしく晴天の霹靂と言わざるを得ません。我々は我々が誇る偉大な登山家を失い悲嘆にくれております。

しかしながら、彼等の志を受け継いでくれるであろう現役の山岳会会員にこの報告書を心を込めて贈ります。報告書のサブタイトルは「希望は高いや更さらに」という思誠寮寮歌の一節を掲げています。これは信州大学山岳会が還暦を過ぎたこれからも山の国「長野県」の大学山岳部として将来に向かって地道な活動を続け、日本中の大学山岳部が無くなるろうとも最後まで松明を燃やし続けて欲しいとの学士山岳会会員の願いを込めたものであります。

今回の記念事業の実行委員長を引き受けたときから、報告書は一年以内に発刊したいと考えていました。そのためネパールへ出発する段階からあらかじめ各チームに編集委員を決めて協力をお願いしてきました。しかし、それ以上にネムジュン西壁の初登攀、ヒムルンヒマールの登頂、ピサンピークの登頂、アンナプルナ山群一周トレッキング、小川勝追悼トレッキング、カンテガ北壁の挑戦とバラエティに富んだ記念事業に対する隊員のそれぞれの思いが強かったこと、また参加したくても出来なかった会員および我々の60年の歴史の中で遭難した会員、病没した会員にきちんと節目の事業報告をしなければとの決意が編集委員の心の中に大きくあったのではないかと考えています。その結果ほぼ予定どおりの期日に発刊できたことを大変嬉しく思っております。

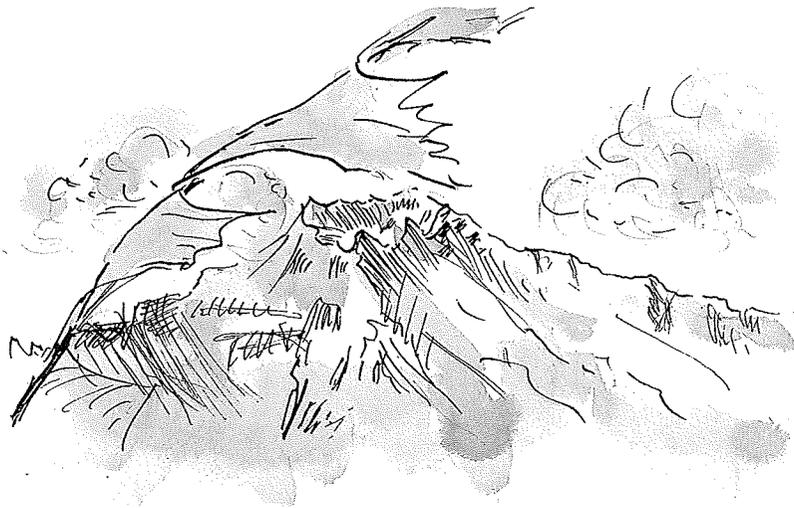
堅苦しい報告書ではなく読んで楽しい報告書になるようカラー写真を出来るだけ多く取り入れました。また各隊員の雑感・感想を出来るだけ掲載し、その文中には写真も多くして臨場感が伝わるように工夫しました。挿画は第三チームの石山駿さんをお願いしました。

特に第一チームは衛星通信を使ったブログを期間中に開示してきましたが、そのブログの文章中心に纏めました。第二チーム、第三チーム、第四チームの

報告もそれぞれの持ち味が出た内容となりました。第五チームはカンテガ北壁の新ルートにチャレンジした記録ですが、他のチームの報告と違った味わいを感じていただければと思っております。また信州大学との共同研究も今回の大きな試みでもありましたので、その研究結果を掲載いたしました。これからもこのような共同研究といった活動を大切にしていきたいと考えています。加えて隊員の個人研究も一つ掲載いたしました。今後の皆様方のご評価を頂きたいと思っております。

最後になりましたが、今回の記念事業に惜しみない援助をして頂いた会員、企業ならびに関係者の皆様に心より厚くお礼を申し上げます。また、報告書作成に甚大な協力を頂いた株式会社クイックスの岡本戡紘さん、藤田幸子さんそして社員の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

編集委員長 松尾 武久



アンナプルナⅡ峰・鎮魂帰神

信州大学創立60周年記念事業
2009年ネパール登山報告書

発行日：2010年12月24日

発行者：信州大学学士山岳会 60周年事業実行委員会
委員長 松尾武久

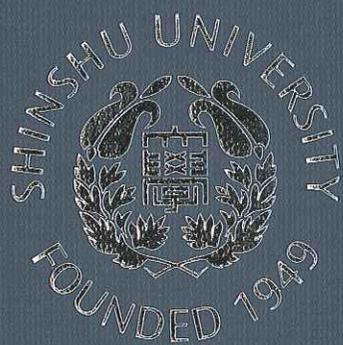
連絡先：〒277-0823 柏市布施新町3丁目23-16

電話番号：04-7132-5872

E-mail：4848-matsuo@mtf.biglobe.ne.jp

HP：http://arayo.jp/

印刷：株式会社 クイックス



信州大学学士山岳会
信州大学山岳会

